

目標達成計画

(コンセプト)

平成17年2月スタート以来、満5年経過し、入居者様の状況は様々に変化してきました。開設後、満5年を契機に一度立ち止まり、全てをリセットし、今後のカム箕谷は入居者と職員にとってどうあるべきかを考え、また、今までのやり方で悪いところにはメスを入れ改善を図り、現在の入居者様にマッチしたケアと職員の処遇改善を目指して行きたい。

(カム箕谷の現状と課題点と今後の方向)

年々、ADLの低下、認知症の進行、介護度が上がって行く中で、おかずの品数や栄養を考え、キザミやとろみを入れるなど入居者に合った調理、丁寧に見栄えのよい盛り付けなどどこにも負けない程きめ細かな3度の食事を提供して来ましたが、一方、食材の購入についても、安くて質のよいものを求めて、離れた場所のスーパーなども利用し、週2～3回、2名で2時間もかけて行くなど、企業努力をしています。現在の高いレベルを維持して行くため、配置人員を増やすなど、今まで歯を喰いしばってやってきました。しかし、平成21年度は、1月時点の予想では、赤字決算が予想されます。これらを鑑み、調理の業者委託化や業務の効率化、合理化を行い、職員とユニットの認知症ケア技術の底上げを図り、少数精鋭集団を目指し、地域社会との交流・連携に力を注げるシステムづくり、仕掛けづくりを行ってまいります。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における課題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		教育・研修 スタッフの全員が、認知症についての知識を十分に理解しているとは、必ずしも言い難い。現場で実際のケアする上で基礎となる知識(基礎・接遇・最新情報)を習得し、認知症ケアのスペシャリストと呼ばれるレベルまで向上したい。	スタッフ個々人のケア技術のレベルアップを図り、さらにチームとしての効率的で合理性のある個別ケアのレベルアップを図る。 ヘテロスタッフもヒキナースタッフもいつでも高水準で均一的なケアができるグループホームを目指す。	接遇教育(あいさつ、髪の色・色、言葉遣い、服装、家族との接し方) 認知症(とは～、中核・周辺症状、対応方法、最新情報)研修・自己啓発 リハビリテーション療法の導入(できるところから) 身体ケアの技術習得(勉強会・研修)	6ヶ月
2		業務の効率化/合理化 (1) 調理の業者委託化 大半の入居者さんが一緒に買物に行かなくなった為、現在では、殆んど食材購入については、スタッフのみで行っている。また、3食ともスタッフの手作りで調理するため台所での作業が主となり、入居者さまへ寄添う時間が取りにくくなっています。 (2) 勤務シフトの変更(配置人員変更)	毎日、目の前の業務(料理、洗濯、掃除、食介、トイレ誘導 等)に追われるだけでなく、認知症ケアの根本である、入居者との「語り合い」(世間話、普話、入居者の一番よかったところのお話 など)の時間を増やしていく。 神戸市が定めた配置基準人員に比べ、多く配置しており、これは主に食事にかかる業務負荷を考えてのことでした。基準の配置人員に近づけ、合理性のある要員を配置します。	デイサービス厨房に調理委託化(昼・夕食) 現在、デイサービス厨房で、デイサービス利用者職員との昼食を委託しており、これにカム箕谷入居者18人の調理を委託する。 朝食は、従来どおりカム箕谷スタッフが調理する。 調理に必要な食材は、「物品請求」で事務課に依頼する。(パンについては、従来どおり業者による宅配を利用)	6ヶ月
3		コンプライアンス(法令遵守)並びに規律(モラル、ルール、規程)、プライバシーの保護、接遇など一部の職員について意識が希薄である。	現在、服務関係(接遇、携帯電話、喫煙時間、風紀、モラル等)として標準とするものがなく、問題が発生する可能性があり、その予防のため「服務規定」として作成し、採用時などで説明し、徹底を図る。	私用携帯電話の使用制限 職場に持ち込まない 喫煙制限 すべての場所で禁煙にするか、時間を定めるか コンプライアンス(法令順守) マニュアルの作成(職員のための行動指針) 等	6ヶ月
4		地域との交流 4年前にグループホームの「地域密着型サービス」の新しいカテゴリに含まれて以来、積極的な動きがあまりできていない。	地道な活動により、地域との係わりを深めて行きたい。	地域のあんしんすこやかセンター主催の認知症、感染症、災害等に関する会合に参加し、できる範囲内で係わりを構築していきたい。	24ヶ月

目標達成計画

(コンセプト)

平成17年2月スタート以来、満5年経過し、入居者様の状況は様々に変化してきました。開設後、満5年を契機に一度立ち止まり、全てをリセットし、今後のカム箕谷は入居者と職員にとってどうあるべきかを考え、また、今までのやり方で悪いところにはメスを入れ改善を図り、現在の入居者様にマッチしたケアと職員の処遇改善を目指して行きたい。

(カム箕谷の現状と課題点と今後の方向)

年々、ADLの低下、認知症の進行、介護度が上がって行く中で、おかずの品数や栄養を考え、キザミやとろみを入れるなど入居者に合った調理、丁寧で見栄えのよい盛り付けなどどこにも負けない程きめ細かな3度の食事を提供して来ましたが、一方、食材の購入についても、安くても質のよいものを求めて、離れた場所のスーパーなども利用し、週2～3回、2名で2時間もかけて行くなど、企業努力しています。現在の高いレベルを維持して行くため、配置人員を増やすなど、今まで歯を喰いしばってやってきました。しかし、平成21年度は、1月時点の予想では、赤字決算が予想されます。これらを鑑み、調理の業者委託化や業務の効率化、合理化を行い、職員とユニットの認知症ケア技術の底上げを図り、少数精鋭集団を目指し、地域社会との交流・連携に力を注げるシステムづくり、仕掛けづくりを行っていきます。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における課題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
5		情報伝達 情報を部分的しか共有できず、伝達も有効に伝わらない。	リスクも含め全ての情報を共有しケアに生かしてゆく。	日頃から情報伝達がうまくいっているかチェックし、その都度指導・助言を根気よく続ける	3ヶ月
6		介護技術の向上 開設以来、5年近く経過し、入居者の高齢化が進み、大きくADLの落ちた特定の入居者に体力を使い果たし、他の入居者への行き届いたケアが出来づらくなっている。	体力と気力の限界ぎりぎりまで、辛抱強くケアをする精神論。 特定な入居者に対しても介護技術を高める一方、介護用具の導入で対応していき、全ての入居者の均一のケアを目指したい。	高度な介護技術の習得 内部・外部研修受講 身体の不調(腰痛) a)チームとしての介護力による対応 b)リター・所長による心のケア スタッフとのコミュニケーションからストレスを解消	3ヶ月
7		食事の改善 糖尿病や高血圧、肥満などの特定の入居者の食事については、必ずしも栄養面を考慮した献立になっていない。	業者委託による調理のプロによるおいしい料理の提供	業者委託後も、管理栄養士の資格を持った介護スタッフを給食改善担当として配置する。また、「給食改善会議」に出席させ、献立への要望、量・質・おいしさ・栄養面などカム箕谷代表として意見・要望していく。	6ヶ月
8		花壇・畑・庭の維持・管理 カム箕谷職員(所長・リター・スタッフ)での作業は、種植えや水やり、肥料まき、添え木、など1年中を通し、息を抜かず、大きな負担となっている。特に夏場などは、水まきなど朝夕で2時間近く要している。	カム箕谷職員に代わり、コストの安い派遣スタッフを契約し、作業全般を担当してもらう。	庭・畑・花壇維持管理チームを編成し対応する。 (チーム)カム箕谷・竹本所長、事務課・事務員・派遣スタッフ 派遣スタッフの人件費について「共益費」として追加させてもらう。	5ヶ月
9		業務改善 服薬作業時、声を出しながら作業をすることになっているが、不十分となっている。 吸引器の扱いやAEDの操作が全員に徹底していない 水分摂取が目標量に達しない入居者がいる	スタッフ全員が声を出して、ミスの防止に努める 全スタッフが吸引器やAEDの取扱いが正しくできるように教育する 水分摂取表の忘れずみながら不足をおぎなうよう自己努力したり、指導する	スタッフ同士で注意し合い、リターはそのチェックを怠らない 入職時、あるいは定期的に研修会を開きカバーする 目標の摂取量に近づくように、手をかえ品をかえ根気強く望んでいく	12ヶ月